

前回懇談会からの主な変更カ所について

資料1-2

項目	頁	行等	変更前	変更後
1		タイトル	(仮称)八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略	八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略
2	2		<(仮称)第3期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けて>	<第3期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けて>
3		10行目	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」
4		11行目	魅力と活力あふれるまち	「魅力と活力あふれるまち」
5	5	2～3行目	令和6年9月末現在では2,765人と本市の全人口の約4%を占める状況となっています。	(2月末現在の状況に修正予定)
6	6	5行目	本市の人口減の構造は、	本市の人口減少の構造は、
7	7	6～9行目	これは、外国人が日本人の転出以上に転入していることが要因であり、日本人の20歳代が大幅に転出超過している状況に変わりではなく、本市の社会動態にも大きな影響を及ぼしています。このことから、持続可能なまちづくりを進めていくためには、20歳代の移動の状況が重要な要素であることがわかります。	これは、大幅に転出超過している日本人以上に、外国人が転入していることが要因であり、本市の社会動態に大きな影響を及ぼしています。このことから、持続可能なまちづくりを進めていくためには、20歳代の人口移動が重要な要素であることがわかります。
8	8	1行目	日本人の転出・転入の状況は、全年齢について見ると、八幡市の転出超過は縮小傾向が見られ、	本市の日本人の転出・転入の状況は、全年齢について見ると、転出超過は縮小傾向が見られ、
9		7～10行目	全体の傾向として、20歳代前半における転出超過が顕著に見られ、特に、京都市では、転出超過、20歳代後半では転入超過の傾向が見られます。また、20歳代前半の転出先は、大阪市や東京都などの大都市への転出が半数以上を占めています。	全体の傾向として、20歳代前半における転出超過が顕著に見られ、大阪市や東京都などの大都市への転出が半数以上を占めています。20歳代後半では、20歳代前半で見られた転出超過の傾向は弱くなり、京都府では、転入超過の傾向が見られます。
10	12	1行目～4行目	こうした経緯を踏まえ、本市の将来人口について、今後も継続すると予測される人口減少を受け入れながらも、将来にわたって「魅力と活力あるまちづくり」を実現し、持続可能な住みよいまちで在り続けるため、次のとおり、目標値を設定し、将来の人口展望を推計します。	こうした状況を踏まえ、本市の将来人口について、今後も継続すると予測される人口減少を受け入れながらも、「住まう先」「訪れる先」「働く先」として選ばれるまちで在り続けるため、「魅力と活力あふれるまち」の実現に向けて、次のとおり、目標値を設定し、将来の人口展望を推計します。
11		市推計値 移動率 2行目	～増加率の逡減を見込む。	～以降、増加率が逡減することを見込む。
12	13	4.基本コンセプト 15行目	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」
13	19	KPI 子どもわくわく教室 目標値	9教室	現状値を維持
14	21	⑤事業	産後ケア	産後ケア【再掲】
15	21	⑥事業	MOM UP PARK by健幸スマイルスタジオ	MOM UP PARK by健幸スマイルスタジオ【再掲】
16	26	3～4行目	インバウンド需要を取り込むため、外国人のニーズに合わせた取組の検討等、	インバウンド需要を取り込むため、外国人のニーズに合わせた取組の検討等、
17		9行目	万博開催期間中だけでなく、万博開催後も	万博開催期間中だけでなく、万博開催期間後も
18	27	KPI 市民文化祭参加者数 目標値	3,000人	現状値を維持
19	30	8～11行目	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」の基本姿勢のもと、現状維持に留まることなく、「みんなで創る」持続可能で「住まう先」「訪れる先」「働く先」として選ばれ続けるまちづくりを推進するとともに、その中心となる担い手の育成に取り組めます。	「ともに考え、ともに実現するまちづくり」の基本姿勢のもと、現状維持に留まることなく、「住まう先」「訪れる先」「働く先」として選ばれるまちで在り続けるため、その中心となる担い手の育成に取り組めます。
20	30	KPI 認定農業者数 目標値	60人	現状値を維持